

第7期介護保険事業計画の「取組と目標」にかかる初期評価の中間報告（隠岐の島町）

(1)取組と目標				(2)自己評価		
テーマ	第7期における具体的な取組	目標(事業内容・指標等)	計画における参照箇所	実施内容	自己評価結果	課題と対応策
(1)自立支援、介護予防・重度化防止の推進	①自立支援、介護予防・重度化防止の普及啓発 ②高齢者の通いの場の確保 ③総合事業の円滑な実施 ④高齢者の生きがい支援	生きがいと健康づくりを推進し、介護予防の正しい知識の普及、啓発を図り、要介護状態を予防する。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 66、67ページ	①地域のサロンや集まりで体操の普及を行った。 ②通いの場の充実をめざし、既存サロンへの支援と新規立ち上げへの支援を行った。 ④シルバー人材センターの設立。	①自己評価:【A】 隠岐の風体操をきっかけとして運動への取り組みを重点に啓発を行っている。シニア世代にむけてのターゲットを絞った啓発は未実施。今後、力を入れて取り組みたい。 ②自己評価:【A】 地域サロンへの支援は新規サロンを中心に社協と連携して行っているが、立ち上げにむけての新たな働きかけも必要。 ③、④自己評価:【A】 働くことを通じて、生活の充実や健康の維持・増進、地域への貢献を目指し積極的に会員を募る。	・新たに高齢期を迎える世代への啓発が課題。関係機関と連携できることを確認しながら介護予防に取り組む。
(2)生活支援サービスの充実	①日常生活圏域毎の生活課題と社会資源の把握 ②多様な主体によるサービスの開発の必要性についての検討 ③支え合い意識を高めるための啓発の強化 ④生活支援コーディネーターの活動支援 ⑤協議体の運営	生活圏域毎の生活課題の探究、解決に向け、「生活支援コーディネーター」並びに「協議体」を機能させながら、地域住民の「支え合い」の意識の高揚を図る。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 68、69ページ	①～③町内4か所で、ワークショップを開催。地域課題を抽出し、住民と共有する機会を設けた。生活支援に関する社会資源を把握し、圏域別「くらしの便利帳」を作成し、配布を始めた。 ④生活支援コーディネーターと定期的に連絡会を開催。情報交換、情報共有に努めた。 ⑤協議体として「生活体制整備連絡会」を開催した。	①、④、⑤自己評価:【A】 ②、③自己評価:【B】 ①～③既存の社会資源の把握ができ、冊子とすることで誰もが理解し、利用することができるようになった。 ④コーディネーター同士の連携は図ることはできている。 ⑤協議体で地域の課題について活発に意見交換できる会議となっている。	・町部の地域課題の把握、コーディネーターの活動が停滞気味。活動の活性化に向けた検討が必要。 ・生活支援コーディネーター、協議体については少しずつ機能してきた。助け合いの意識の高揚に向けた取り組みが課題。
(3)高齢者の生活環境(住まい)整備の推進	①住宅改修及び福祉用具制度の活用 ②高齢者施設整備	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための支援の充実と高齢者向けの住宅整備について検討していく。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 70ページ	①パンフレット配布や町HP掲載。役場窓口及び隠岐病院地域連携室等関係機関より周知を行う。 ②サービス付き高齢者住宅整備について、ニーズ調査及び整備予定地などを検討する。	①自己評価:【A】 継続して周知していく。 ②自己評価:【C】 調査方法、対象候補地など検討材料が無いので今後準備を進めていく。	・在宅生活がしやすくなるよう環境整備の充実を図っていく。 ・病院やスーパー等が近くにあるような利便性の良い候補地選定に困難を伴う。
(4)地域ケア会議の推進	①政策形成に繋げるための取り組み ②個別ケア会議の実施 ③介護支援専門員連絡会の開催 ④7圏域の地域連絡会の開催	本町における地域包括ケア推進体制構築の為、地域課題を確認し新しい社会資源の創出や地域づくりを図る為の政策提言を行う。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 71、72ページ	①地域包括ケア推進協議会にて、各会議から挙がってきた課題について協議を行う。 ②個別ケア会議開催件数:3件 ③ケアマネ連絡会の定期開催(9回開催) ④地域連絡会の定期開催(40回開催)	①～④自己評価:【A】 地域包括ケア推進協議会にて、政策提言として在宅の医療体制についてという内容で協議を行う。医療体制ということで町長にも事務局として参加して頂き、隠岐病院、そして診療所の体制について確認した。	・継続して各会議からでた町の課題の対応案について、推進協議会で確認する。課題によっては既存の委員だけでなく、庁舎内の他課との連携も図っていく。
(5)在宅医療・介護連携の推進	①在宅医療・介護連携推進事業の実施 ②関係機関における在宅医療・介護連携に関する事業への協力 ③ターミナルケアの在り方の検討	本町の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護の一体的な提供に必要な支援や施策を講じるための、医療・介護の連携強化を図る。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 72、73ページ	①看取りの文化を取り戻すための町民向けの講演会や多職種での研修会を開催。 ②隠岐病院における医療・介護連携に関する意見交換会への参加。 ③在宅医療・介護連携部において、医療体制(訪問診療・訪問看護)について検討し、ケア会議にて協議。 ④エンディングノートの配布とリビングウィルカードの検討。	①、②自己評価:【A】 住み慣れた地域で、家で最後まで暮らしていくために、施設志向の強い町民への普及啓発や、スタッフの意識改革のための研修会を実施することができた。また、医療体制の整備についてケア推進会議で協議できたことは成果と考える。 ③自己評価:【○】 エンディングノートを普及し、ご本人の意思決定を尊重した医療やサービスの提供ができるように努めることができた。	・在宅・医療介護連携を進めるうえで、医療体制の充実を避けて通れない最大の課題となっているが、医師確保等の問題もあり解決しがたい課題となつてのしかかっている。継続して検討が必要。

(1)取組と目標				(2)自己評価		
テーマ	第7期における具体的な取組	目標(事業内容・指標等)	計画における参照箇所	実施内容	自己評価結果	課題と対応策
(6)認知症施策の推進	①認知症に対する啓発 ②認知症ケアパスの普及③認知症カフェの開催④認知症初期集中支援チームの運営⑤認知症地域支援推進員の取り組み ⑥認知症スクリーニングの実施 ⑦認知症による徘徊の対策⑧認知症施策推進へ向けた体制整備	認知症の早期発見と迅速に適切な支援に繋ぐことができるよう、認知症についての普及・啓発の強化を図る。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 73、74、75ページ	①各圏域での講演会の開催と認知症サポーター養成講座の企画・実施②医療機関への配布 ③各圏域での開催④認知症部会での検討委員会の設置。 ⑤各種会議への参加やケアパス、カフェの企画 ⑥各種行事での実施(普及目的)認知症個別ケースでの実施 ⑦認知症対応専門部会での検討 ⑧部会の開催と地域包括ケア推進協議会にて報告と検討。	①～⑤自己評価:【A】 ⑥～⑦自己評価:【B】 ⑧自己評価:【A】 ①～⑦普及・啓発について、今までと違い各圏域での開催を企画した。サポーター養成では中学生に対して行い、若い世代の担い手を育成する事が出来た。⑧部会にて「徘徊高齢者の対応」について協議を行うことができた。	・精神科医師の業務多忙により、会議等への参加が困難な現状がある中で、新たな認知症サポート医が確保され、医師の体制が整備された。 ・認知症初期集中支援チームの実績がまだ少ない状況。チーム員会議を随時開催から定期開催とし、実績を積み上げるによりチームのスキルアップを図る必要がある。
(7)介護人材の確保	①奨学金制度及び補助金制度の実施 ②福祉職場処遇改善事業 ③介護・障がい福祉職場の正規職員化促進事業	今後の急速な高齢化と労働力人口の減少に備え、介護人材を安定して確保し、施設や在宅での手厚いサービス提供が継続できる対策を講じる。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 76ページ	①従来の制度を見直し検討した。 ②町独自の支援事業創設に向け調査検討した。 ③町独自の支援事業創設に向け調査検討した。	①～③自己評価:【B】 平成31年度新規事業として協議を行った。	・本町の介護福祉施設の人材不足は深刻化しており、事業所・施設のサービス継続が困難になることが危惧されるので早急に対応策を講じる必要がある。
(8)高齢者の権利擁護体制の強化	①高齢者虐待への対応 ②成年後見制度の利用促進	権利擁護の専門的な視点からの支援を実施し、高齢者が地域において尊厳ある生活をおくることができるよう取り組みを推進する。	第8章 3. 生活圏域としての課題と重点施策 76、77ページ	①高齢者虐待への対応→1件(平成30年度) ①②隠岐の島町の広報媒体を活用して、高齢者虐待と成年後見制度を周知する。 ②成年後見制度関係者会議へ定期的に参加する。	①、②自己評価:【A】 周知について従来通りの講演会ではなく、目に触れる機会の多い町独自の広報媒体を活用し広く周知を行う事ができた。	・高齢者虐待の対応について、介入の際の判断が困難な時がある。専門的な視点の強化が必要である。 ・権利擁護(虐待・後見)についてまだまだ住民の理解は乏しく、今後もさらなる周知が必要と感じる。

【評価の基準】

- A・・・事業計画通りの事業に取り組みを始めている。
- B・・・事業計画通りの事業に取り組もうと準備している。
- C・・・事業計画通りの事業に全く取り組んでいない。準備もしていない。